

東京と公家町の衰退

1869年の東京遷都は、京都の人々にとっては受け入れ難い変化でした。街そのものの活気が消えてしまったかのようにでした。貴族も東京に住居を移し、その壮麗な邸宅も空き家となりました。それらのいくつかはレストランに改装されました。後に宮内省となる留守官が御所の維持保全をしましたが、御所そのものを除けば、公家町は特別な地位を失い、荒廃しました。ただの街の一部となってしまったのです。

明治初期の「京都新聞」

※現在の京都新聞社とは異なります。

明治初期の九條池と拾翠亭